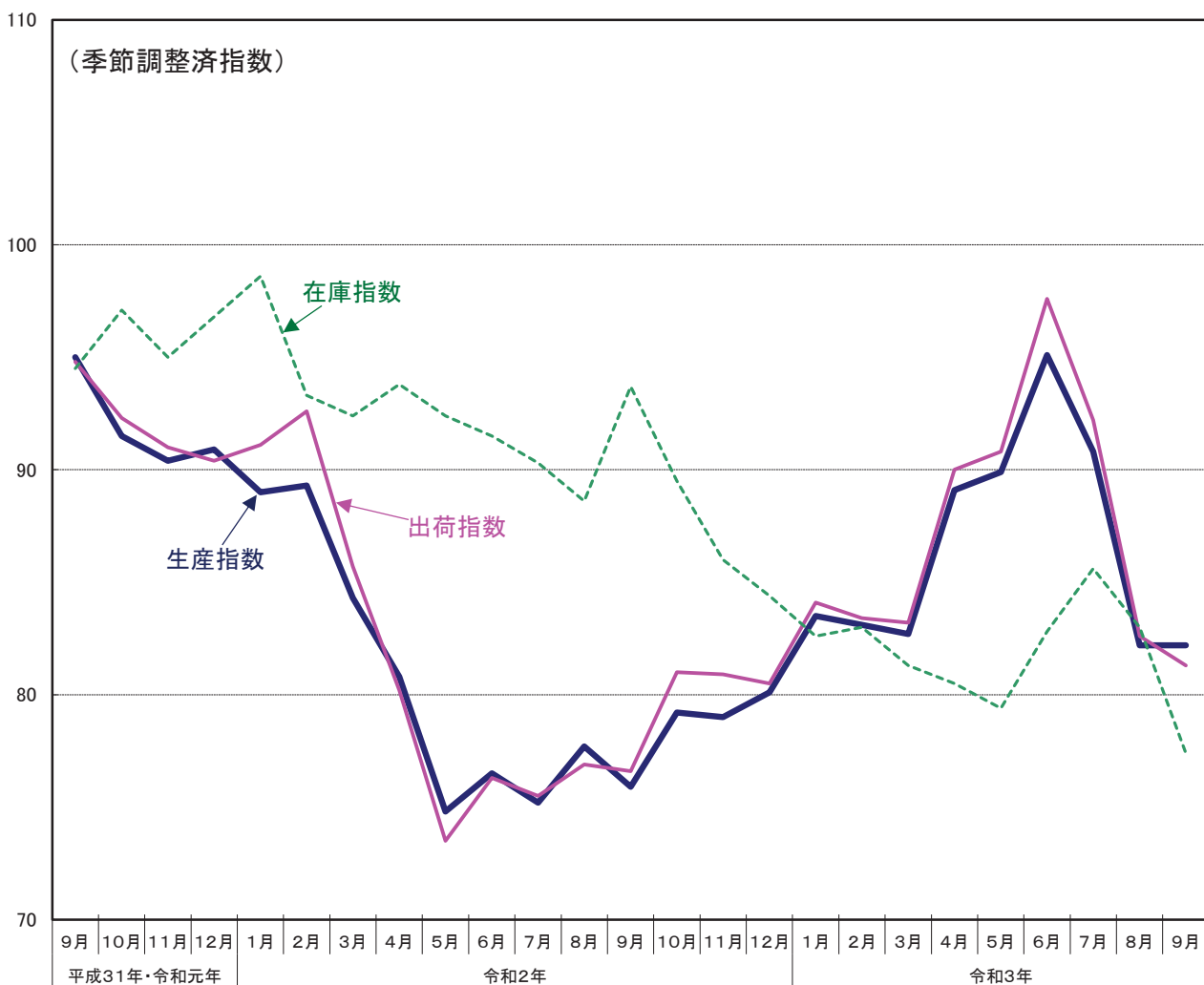


公表日
令和3年11月30日(火)

東京都工業指数月報

令和3年9月分・第3四半期分

東京都工業指数の推移 (平成27年平均=100.0)



東京都工業指数の概要

1 目的

東京都内の工業生産活動の動向を、総合的かつ迅速に把握することを目的とする。

2 指数の基準年次

平成 27 年（2015 年）である。

3 作成の範囲及び分類

- (1) 日本標準産業分類大分類 E「製造業」に属する産業の生産指数、出荷指数及び在庫指数について、原指数と季節調整済指数を作成している。

なお、経済産業省の鉱工業指数で採用されている大分類 C「鉱業、採石業、砂利採取業」及び E「製造業」の中分類 17「石油製品・石炭製品製造業」は、東京都ではウェイトが小さいため採用していない。

- (2) 分類は、日本標準産業分類に基づく業種分類と、採用品目をその用途により財別に格付けした特殊分類の二つである。

4 採用品目

生産指数及び出荷指数は、145 品目、在庫指数は 67 品目である。

5 ウェイト

- (1) 生産指数のウェイトは、基準年次の付加価値額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（1 万分比）である。

- (2) 出荷指数のウェイトは、基準年次の生産者出荷額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（1 万分比）である。

- (3) 在庫指数のウェイトは、基準年次の生産者製品在庫額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（1 万分比）である。

6 算式

指数の算式は、個別系列を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均（ラスパイレス算式）である。

7 季節調整

景気の動向にかかわらず、1 年を通してほぼ規則的に繰り返す季節的な変動要素（気候条件の変化や社会的な慣習、制度等）を取り除くために季節調整を行っている。

東京都では、センサス局法の X-12-ARIMA を使用している。

8 資料の出所

ウェイトの算出に利用した付加価値額、製造品出荷額及び在庫額は、「平成 28 年経済センサスー活動調査」を基礎データとして、「生産動態統計調査」等から得た。

各品目の系列資料は、「生産動態統計調査」、「薬事工業生産動態統計調査」、既存の資料及び業界等の協力によって得ている。

全国の鉱工業指数は、経済産業省「鉱工業（生産・出荷・在庫）指数」による。

9 その他

平成 12 年基準改定において鉱業を採用しないこととしたため、平成 15 年 7 月以降、名称を「東京都鉱工業指数」から「東京都工業指数」に変更した。

東京都工業指数の動向 (令和3年9月分)

概況

－ 生産指数は前月比で0.0%の横ばい － (平成27年平均=100.0)

項目	月	季節調整済指数		原指数	
		指数	前月比(%)	指数	前年同月比(%)
生産指数	9月	82.2	0.0	90.3	8.3
	8月	82.2	△ 9.5	74.4	7.8
出荷指数	9月	81.3	△ 1.6	89.9	6.0
	8月	82.6	△ 10.4	74.5	9.4
在庫指数	9月	77.4	△ 6.7	76.6	△ 17.5
	8月	83.0	△ 3.0	82.9	△ 6.3

注) 指数は、最新月が速報値、それより前の月は確報値である。

1 生産指数

9月の生産指数は、前月比で0.0%の横ばいで、指数水準は82.2(季節調整済)となった。輸送機械工業、化学工業等9業種が低下し、家具工業、電気機械工業等13業種が上昇した。

2 出荷指数

9月の出荷指数は、前月比で1.6%低下し、指数水準は81.3(季節調整済)となった。輸送機械工業、化学工業等10業種が低下し、家具工業、電気機械工業等12業種が上昇した。

3 在庫指数

9月の在庫指数は、前月比で6.7%低下し、指数水準は77.4(季節調整済)となった。その他製品工業、生産用機械工業等12業種が低下し、情報通信機械工業、食料品工業等9業種が上昇した。

業種分類別の動向(季節調整済指数)

	前月比上昇				前月比低下			
	業種数	主な業種名	前月比(%)	寄与度	業種数	主な業種名	前月比(%)	寄与度
生産指数	13	家具工業	76.2	0.7	9	輸送機械工業	△ 19.9	△ 2.0
		電気機械工業	4.4	0.7		化学工業	△ 13.0	△ 1.2
出荷指数	12	家具工業	56.0	0.5	10	輸送機械工業	△ 20.2	△ 2.7
		電気機械工業	3.6	0.5		化学工業	△ 10.2	△ 0.7
在庫指数	9	情報通信機械工業	7.5	0.8	12	その他製品工業	△ 29.8	△ 3.0
		食料品工業	38.8	0.4		生産用機械工業	△ 24.7	△ 1.9

注) 主な業種には、寄与度の上位2位を掲載した。

※寄与度は、各業種の上昇・低下がどれだけ全体を上昇・低下させたかを示す。

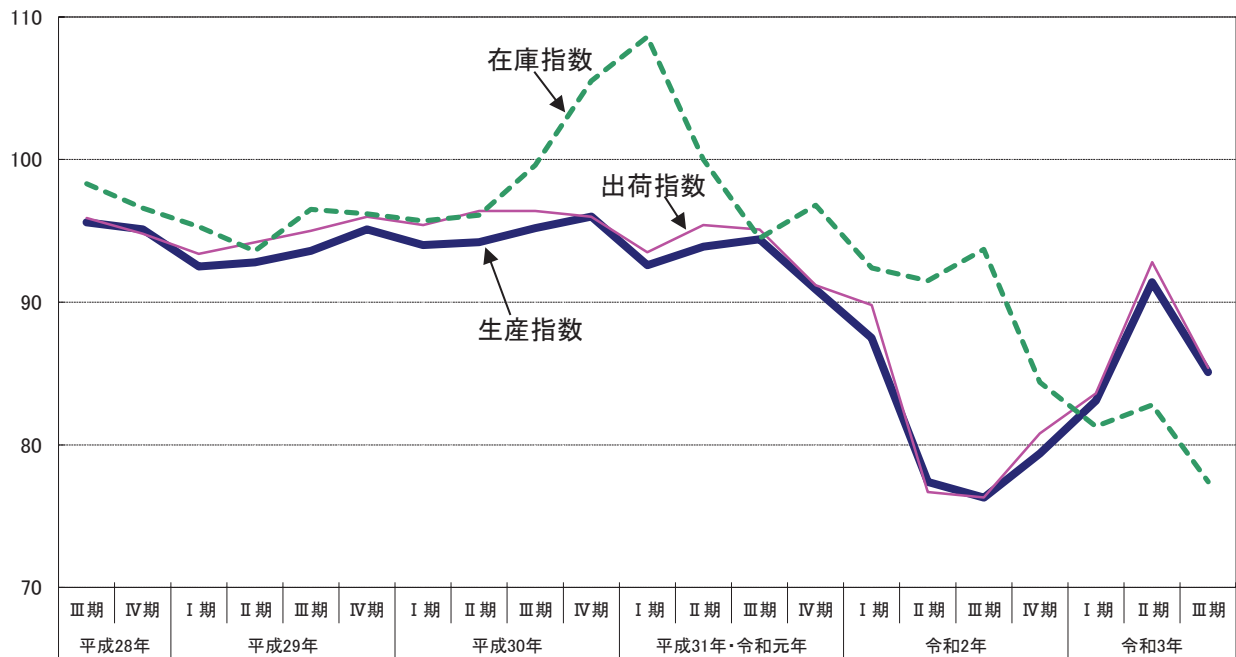
東京都工業指数の動向 (令和3年第3四半期(7~9月)分)

1 工業生産活動の動向

令和3年第3四半期の生産指数は前期比で6.9%の低下、
出荷指数は前期比で8.0%の低下、在庫指数は前期比で6.5%の低下

令和3年第3四半期の生産指数は、前期比で6.9%低下し、4期ぶりの低下となった。出荷指数は、前期比で8.0%低下し、4期ぶりの低下となった。また、在庫指数は、前期比で6.5%低下し、2期ぶりの低下となった。

工業指数四半期別(季節調整済指数)の推移 (平成27年平均=100.0)



工業指数四半期別(季節調整済指数)の推移 (平成27年平均=100.0)

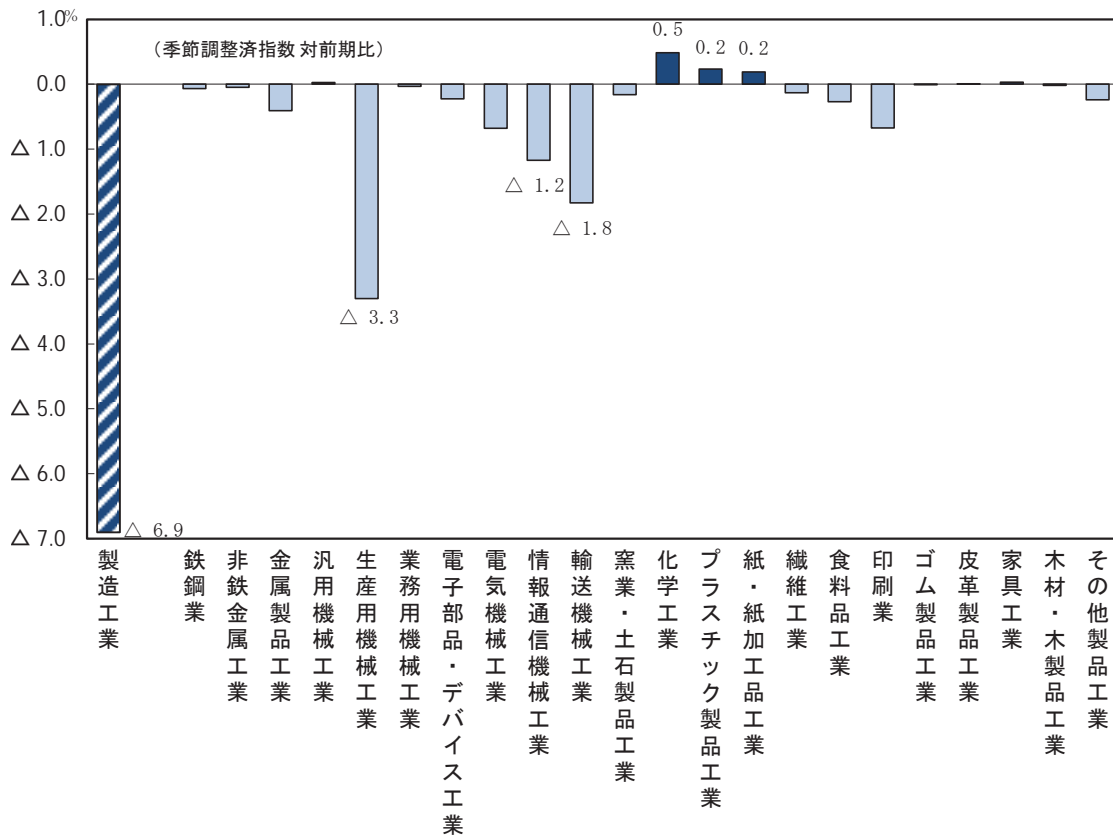
年・四半期	生産指数	前期比(%)	出荷指数	前期比(%)	在庫指数	前期比(%)
令和2年 I 期	87.5	△ 3.7	89.8	△ 1.5	92.4	△ 4.5
II 期	77.4	△ 11.5	76.7	△ 14.6	91.5	△ 1.0
III 期	76.3	△ 1.4	76.3	△ 0.5	93.7	2.4
IV 期	79.4	4.1	80.8	5.9	84.4	△ 9.9
令和3年 I 期	83.1	4.7	83.6	3.5	81.3	△ 3.7
II 期	91.4	10.0	92.8	11.0	82.8	1.8
III 期	85.1	△ 6.9	85.4	△ 8.0	77.4	△ 6.5

注) 指数は、最新の四半期が速報値、それより前の四半期は確報値である。

2 生産指数対前期比の業種分類別寄与度からみた動向(令和3年第3四半期)

生産用機械工業等が低下に寄与

生産指数の前期比に対する業種分類別寄与度で見ると、低下に寄与した業種は、生産用機械工業、輸送機械工業、情報通信機械工業等16業種であった。上昇に寄与した業種は、化学工業、プラスチック製品工業、紙・紙加工品工業等6業種であった。



注1) 寄与度とは、各業種の上昇・低下がどれだけ全体を上昇・低下させたかを示す。

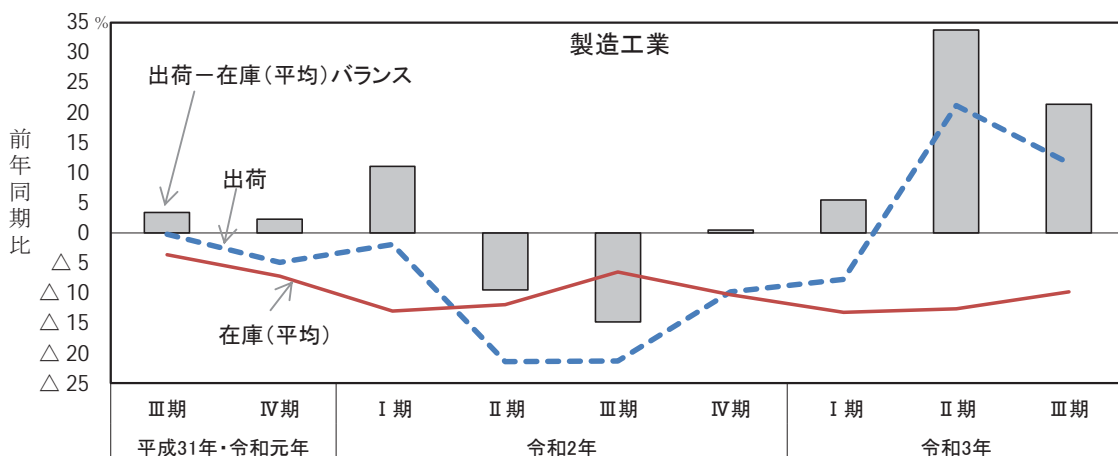
2) 生産指数対前期比とは、直前の四半期の生産指数と比べて、最新四半期の生産指数がどのくらい上昇・低下したかを示す。

3) 季節調整は各系列ごとに行っているため、業種分類別寄与度の合計と製造工業(全体)の前期比は必ずしも一致しない。

3 出荷－在庫バランスからみた動向(原指数・四半期別)

出荷－在庫バランスは、プラスで推移した。

四半期別の出荷と在庫の前年同期比の差である出荷－在庫バランスをみると、令和3年第3四半期は、4期連続のプラスとなった。



注) 出荷－在庫バランスについて

出荷－在庫バランス(=出荷の前年同期比－在庫の前年同期比)は景気の先行き予測に利用される。プラス幅の拡大は、在庫水準の低下・生産活動活発化の必要性(景気回復)を、マイナス幅の拡大は、在庫水準の上昇・生産調整の必要性(景気悪化)を示している。